

山岳遭難防止実施講習 報告

さいたま市山岳連盟
遭難対策委員会

日時 : 平成 20 年 10 月 18 日(土) 9:00~16:00
場所 : 横瀬二子山
講師 : 埼玉県警 山岳救助隊 5名
受講人数 : 32名

<講習内容>

1. 登山前の情報収集、準備など
日の出・日没時刻、気象、気温遡減率、交通、装備品、体調管理
2. 視認・音響（山中での見え方、聞こえ方）
3. 補助ロープでの岩場の通過
4. 読図、状況の判断
5. スリングによる簡易ハーネス

道の駅あしがくぼに集合。駐車場にて登山前の情報収集、装備についての話があった。その後、2班に別れて別々の道で講習をおこないながら横瀬二子山の山頂へ。下山後は駐車場で、レスキューの説明と簡易ハーネスの使い方を教わった。

<所感、まとめ>

- ・救助を求める場合、赤のヤッケや、銀のレスキューシートを大きく振ると捜索者から認識しやすい。特に、銀のレスキューシートはヘリコプターでの捜索にも目立つとの事である。
- ・笛は、中にコルク玉が入った物が遠くからでも良く聞こえた。
- ・補助ロープは、20m×φ9mmのスピードザイルが便利そうであった。
- ・道に迷ってもあせらない。ヘッドランプやビバークの装備も用意しておく。暗い中で、あせって下山する事は危険である。

下山時に、笛の音が聞こえ山岳救助隊が応答したところ、道迷いの登山者（市岳連とは無関係の単独行者）を発見しました。僅か15分程の遭難騒ぎでしたが、救助隊の方々に緊張が走りました。救助された方は、怪我も無くて何よりでした。

秩父の山では、林業の道も多く登山者の道迷いが多いとの事です。時々後ろを振り返り、来た道に戻るための景色を覚える、あせって行動しない、などに気を付けて遭難者にならないよう注意しましょう。

以上